

を力柴といふ、それがたし、其葉水葱に似たるよりいふなるべし、平家物語に梅をよめれど、竹柏也といへり、或は柳をよむは二合の意、本義にあらず、籠篋には橋をよみ、又柳をよめり、山城宇治郡に柳辻といふ村あり。

〔和漢三才圖會 喬木 八十三〕奈岐乃木 正字未詳

按奈岐木高二三丈、老則皮自脫爲紅膚、復次如此、葉似竹葉而厚、有縱理、淺綠色、表裏滑美甚強、兩兩對生。

〔紀伊續風土記 物產六上〕竹柏 本草

一名竹葉柏、秘傳花鏡、俗に櫟の字を用ふ二合の意、本義にあらすと和訓栄に櫟の字を用ふるに二説あり、正字通には櫟俗櫟ノ字、舊注に音那木名誤ルといひ、康熙字典には桂海花志の拘那花を引て、櫟と一物とす、拘那花は夾竹桃なり、ともにナキの事にあらず、平家物語に櫟の字を用ふるに一本に極と書す、按するに梅は楠と同字、楠檜の梅字共にナキに用ふるは非なり、籠篋内傳に楠の字を用ふる考ふべからず、山城宇治郡村里に櫟ノ辻あり、是櫟字亦考へがたし、

〔倭名類聚抄十九〕榧子

本草云柏實、柏音百 一名榧子、榧音匪 和

〔箋注倭名類聚抄十九〕

按原書柏實在木部上品、榧實在下品、二物不同本草和名云、榧實和名加倍

乃美柏實、和名比乃美、一云、加倍乃美、其柏實有兩訓者、蓋舉或說以存疑也、源君以榧實柏實並訓加倍乃美誤合爲一、遂云柏實一名榧子、其實本草無有是文也、本草圖經云柏實三月開花九月結子、候成熟收採用、其葉名側柏、皆側向、李時珍曰、其樹聳直、其皮薄、其肌膩、其花細瑣、其實成核狀如小鈴霜後四裂、中有數子、大如麥粒、芬香可愛、小野氏曰、柏多種類單稱柏者謂側柏扁柏、本草所載柏實、卽側柏子也、側柏和名古乃天加之波、扁柏和名比、依之側柏扁柏木一類、則柏實訓比乃美爲允、又蘇敬注榧實云、其樹大連抱、高數仞、葉似杉、其木如柏、作松理、肌細軟、堪爲器用、又注蟲部彼子云、此彼字當木傍作皮、被木實也、誤入蟲部、爾雅云、被一名杉、葉似杉、木如柏、肌軟子名榧子、本草衍義云、榧實大如橄欖、殼色紫褐而脆、其中子有一重黑衣、其人黃白色、嚼久漸甘美、爾雅翼云、被似杉而異于杉、被有美實而木有文采、其木似桐而葉似杉、絕難長、冬月開黃圓花、結實大小如棗、有尖者